巻頭特集

小浮正典豊明市長インタビュー

市民と共に「しあわせのまち」の実現を

今年4月の市長選挙において、無投票で2期目の舵取りを任された小浮正典市長。笑顔と気さくさが印象的だが、学生時代に相撲で鍛えた、しっかりと地に足がついた地力の強さこそ、持ち味なのではないだろうか。半生を振り返りつつ、市政への思いを聞いた。

PROFILE

小浮正典（こうき まさふみ）

1969年3月11日、大阪市生まれ。京都大学経済学部卒業。大学時代は相撲部主将。米国ビッツバーグ大学公共・国際問題専門大学院修了。朝日放送報道ディレクター、朝日新聞記者などを経て、イオンの広報マネージャーへ。2012年、公募による豊明市副市長に選任。2015年から豊明市長。現在2期目

相撲が趣味の小浮市長。競技者時代（25歳まで）は今よりも体重は20キロ重かったが、ウエストは細く、体脂肪率も低かったと笑う。冬場には四股を踏み、体力づくりに励んでいる。市内に名古屋場所の宿舎を開く西岩部屋には、稽古を見に行くそうで、若い力士たちの成長が楽しみと話す

東日本大震災後の経験を機に地方行政への関心が芽生える

―公開されているプロフィールを拝見すると、政治家へ至った経緯が見えませんが。

確かにそうですね。もともと政治家志向ではありませんでした。大学時代は映画監督を目指していました。脚本の勉強もしていたのですよ。ところが、当時バブル時代ながら映画は斜陽産業で営業職の採用しかなく、家の近所にあったテレビ局に入ったのです。ドラマを作る制作部門を希望しましたが、報道部に配属されました。

―そのテレビ局を5年で退職し、その後は転職を繰り返されていますね。

大きな仕事の機会にも恵まれて充実していた反面、旧態依然の取材、特に被害者への取材のあり方が問題と考えていました。自分の訴えは聞き入れられず、ついには見切りをつけました。しかし、時代は就職氷河期。報道の世界でしか働いた経験がなく、辞めたテレビ局系列の新聞社に入るわけですが、やはり自分の理想と会社が求めるものとのギャップに悩み、転職を繰り返しました。そんな時、たまたまイオングループが広報を募集していまして、採用されたのです。

―同じ情報を扱う仕事ですが、立ち位置は逆です。戸惑いなどはありましたか。

抵抗感はあまりなかったです。むしろ自分の居場所を見つけた、と感じたほどです。5年後、東日本大震災が発生しました。広報として、原発事故による風評被害を断ち切ることに全力を傾けましたが、惨敗でした。震災後に現地で仕事をしていて目の当たりにしたのは、地域コミュニティの強さ、弱さがこうした大災害時に現れるということ。問題を解決していく能力が、その地域にあるのかないのかで、復興の速度も違いました。いつしか地方自治の仕事をしてみたいと思うようになりました。

―それで豊明市の副市長に応募されたのですね。

40歳半ばでしたので、一般職で入れる年齢ではありません。地方自治に携わるすべを模索するなか、副市長の公募がありました。今でも受かったのが信じられないくらいです。とにかく副市長の仕事を一生懸命務めて、地方自治を学べば次の展開も見てくるのではと。その後、さまざまな方から声をかけていただき、市長選挙に立候補し、多くの支援、応援を受けて大役を担うことになりました。

豊明市の明日を見据えながら市民協働のまちづくりを推進

―豊明に住まれて7年。市長の目から見た市の魅力とは何でしょうか。

5つあげます。まずは市民の力です。率先して地域をよくしようと自ら活動される方が多く、地域コミュニティの強さがうかがえます。市民が一番の財産であり、魅力です。次に医療機関の充実です。藤田医科大学病院の存在は大きく、市民の健康を支えています。3つ目が公共交通、4つ目が歴史と観光資源、そして最後が市役所の職員の力です。市長になって、最初に職員の行動や判断基準を「現在の、また将来の市民のためになるか」の1点に単純化しました。今や指示待ちはほとんどありません。ここ数年、市のさまざまな事業で成果をあげてきているのは、職員の努力と市民の皆さまの力によるものです。

―子育て世代の転出が指摘されています。高齢化も進んでおり、人口問題は大きな課題になっていますが。

子育て世代は、賃貸から戸建てへの移行が増える世代ですが、豊明では新しい住宅地が確保できないでいました。需要はあるのに提供できず、それが転出の多さに繋がっていました。現在は住宅用地の整備を進めています。また、学校教育にも力を注いでいきます。教育環境が充実していれば、子どもたちにプラスですから、親御さんも移る理由がなくなるでしょう。高齢化については「健康寿命日本一」を目指す市にとってよいことです。行政主催の事業以上に、市民の皆さまが積極的に健康長寿に取り組んでくださっています。一方で、高齢層を支える世代も必要です。子育て世代の転出を抑え、長く住むほどよさが実感できるまちづくりを、市民の皆さまといっしょになって実現していきたいと考えます。

―では最後に、市長が描く豊明市の未来像をお聞かせください。

市ではまちの未来像を「みんなでつなぐしあわせのまち」と定めています。誰もが自らに誇りを持ち、自らが歩みたい人生を選択でき、そして人を思いやることのできる、笑顔あふれる豊明を、市民の皆さまと手を取り合って築いてまいります。私たち行政もそのような社会を目指して努力を続けていきます。行政は何をしているの、と問われるほど、市民の皆さまの手で問題を解決していくまちが、もっとも住みよいまちだと思います。もうその理想に一歩近づいているのが、今の豊明市です。私は「にぎやかし」で連日、さまざまな場に顔を出して、皆さまの声を聞き、お願いにまわっているだけですから。

上）豊明青年会議所主催の「わんぱく相撲豊明場所」に参加する小浮市長。エキシビションマッチで、優勝した子どもとの取り組みもあるそうだ
右）健康長寿に向けた「まちかど運動教室」。各地域の集会所や公民館などで開催され、約1時間のストレッチと筋力アップ体操を行う

上）「ひまわりバス」は豊明市が運営するコミュニティバス。市役所と前後駅それぞれを起点に循環する2コースが運行している　下）民間の力で導入された乗合車両「チョイソコ」。北部の沓掛地区、坂の多い仙人塚・間米地区における新たな交通手段として活躍中

INFORMATION ‖ 豊明市役所　住所:豊明市新田町子持松1-1　電話:0562-92-1111　文／長屋整徳　写真提供／豊明市役所 秘書広報課　写真／杉浦萌　デザイン／chica